

2012 日本肺癌学会総会の参加報告

第53回日本肺癌総会@岡山

肺癌の克服に向けて —現状の解析と将来への提言—

2012年11月8日と9日に岡山で開催された日本肺癌学会総会で、当科から多くの研究成果を発表しました(12演題)。また、当教室の浦本秀隆(講師)が、平成24年の“篠井・河合賞”を受賞し、賞を授与されるとともに受賞記念講演を行いました。

Work Shop

“EGFR遺伝子変異陽性肺癌に対する治療戦略”

“EGFR-TKI耐性に関する分子機構と治療展開”

浦本秀隆, 他

ビデオ発表

“中下葉切除術を回避できた、全周性テレスコープ吻合によるsleeve lower lobectomyの1例”

名部裕介, 他

“導入放射線化学療法を施行し完全切除し得たN2肺癌”

岡 壮一, 他

“gefitinib投与後に左肺上葉切除+肺動脈形成を施行したEGFR変異陽肺癌の1例”

中川 誠, 他

口演

浦本秀隆：完全胸腔鏡下手術における出血の経験とその対応

近石泰弘：cNOの孤立性末梢小型肺癌（10mm以下）切除術に対する治療成績

中川誠：腫瘍径5cm以上の非小細胞肺癌切除症例の検討

岩田輝夫：Gefitinib減量投与6症例の検討

花桐武志：肺癌所属リンパ節における制御性T細胞の臨床病理学的意義

宗知子：心合併症を有する肺癌症例の周術期管理について

下川秀彦：異時性多発肺癌に対してcompletion pneumonectomyを施行した1例

他



名部裕介先生

演題の中でも、当科専門修練医である名部裕介先生が**卒後3年目**の若さで**全国学会のVideo Session**にて堂々と発表を終えたことは非常に刺激になりました。全国的に有名な先生からも名部先生に向けて多くの質問があり、非常に有意義な時間であったと思います。

医局長浦本先生の篠井・河合賞受賞記念講演

“肺癌の生物学的悪性度、抗癌剤の感受性、耐性に関する研究”

- ①癌の発生や浸潤・転移、再発予測に関与する各関連遺伝子・因子の変異や発現異常のbiomarkerとしての臨床的有用性
- ②抗癌剤(殺細胞薬)のprospective studyの実証、EGFR感受性遺伝子の変異と抗癌剤感受性の相関
- ③CDDP耐性に関する遺伝子群の調節機構の解明、EGFR-TKI耐性化のprofileに重要性

これらの研究を元に肺癌治療の個別化を目指しています。



左:浦本先生 右:中西洋一先生(日本肺癌学会理事長)

当科の研究が、全国的に評価され大変光栄に思います！！

浦本秀隆先生の受賞歴

H18年 日本がん分子標的治療学会(旧がん分子標的治療研究会)研究奨励賞受賞

H24年 福岡医学会 研究奨励賞

H24年 日本呼吸器外科学会 学会賞



左:浦本先生 右:豊岡伸一先生(岡山大学)
2人が今年の篠井・河合賞受賞者でした。

今後も北九州の情報を日本に、世界に、積極的に発信していきたいと思っております！今後とも宜しくお願い致します。